

ブラジル 降雨は果実の生育に有利だが風と雹が懸念される

[Cepea 2025年12月3日](#)

11月後半の降雨は、柑橘類地帯(サンパウロ州及びトリアンゴロミネイロ地域)のほとんどの産地に有利に働き、2025/26年度シーズンの果実の品質向上と2026/27年度産果実の生育に寄与した。しかし、一部の地域では降雨は強風と雹を伴い、樹体、果実及び花を損傷した。Cepea(サンパウロ大学応用経済高等研究センター)が調査した生産者らは、今年は極端な気象現象が多いことを懸念していると述べた。

価格 良好的な果実の品質にもかかわらず、11月下旬の生食用オレンジの価格は加工業界の価格低下の影響を受けて下落した。11月24日～27日のスポット市場でのペアオレンジ(40.8kg箱)の平均価格は38.44レアルで、前の週と比べて1.82%下落した。同週のペアオレンジの生鮮市場価格は、前週から5.29%下落し、同53.30レアルで取引を終えた。月間累計では、価格は14.7%下落した。(1レアル=約29円)

関税 柑橘類製品の輸出部門は、11月下旬に重要な関税の軽減を享受した。米国政府は、オレンジ果汁の10%の追加関税を免除した。副産物(エッセンシャルオイル、医療・治療用途の副産物、オレンジパルプ)については10%の関税は継続しているが、40%の追加関税が免除された。特にヨーロッパ向けオレンジ果汁の出荷ペースが鈍化している中、これはこのセクターにとって朗報である。EUは通常よりも購入量を減らしており、したがって、米国市場への出荷コスト削減はブラジル製品の販売を促進し、ヨーロッパの需要減少を補う可能性がある。

南アフリカ 2025年の柑橘類輸出が22%増加

[FreshPlaza 2025年12月4日](#)

南アフリカの2025年の柑橘類輸出は前シーズン比で22%増加し、史上最高を記録した。最終的な輸出量は、4月時点の予測である1億7,120万箱を19%上回った。南部アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)は、この増加を安定した気象条件、海外需要、及び港湾業務の改善によるものと説明している。さらに、果汁用オレンジ及びレモンの需要増加、並びに北半球からの供給の早期終了による南アフリカ産出荷シーズン序盤の販売期間の延長も要因となった。

CGAのボイツォコ・ンツアベレCEOは、輸出量の増加は業界の全体像を反映したものではないと指摘し、「輸出量は業界を評価する1つの指標に過ぎない。我々の生産者は依然として予測困難な価格や市場動向、上昇する投入コスト、さらに高関税や非科学的な植物検疫措置といった市場アクセス関連の課題に直面している」と述べた。同氏は、米国による30%の関税は導入時期が遅かったため今季の影響は限定的であったが懸念が残るとして、「30%の関税の2026年シーズンへの影響を大変懸念しており、米国と南アフリカの間で相互に利益となる貿易合意を早急にまとめる必要がある」と付け加えた。

CGAのヘリット・ファン・デル・マルヴェ会長は、より広範な市場アクセスの必要性を強調し、「政府は中国、インド、日本、韓国、EU、米国への市場アクセスの改善を積極的に追求することが不可欠である。これらの市場は、品質と味で世界的に知られる南アフリカ産柑橘類に、真の成長機会を提供する」と述べた。

農業経済学者のワンドイレ・シロボ氏は、複数の品目にわたる輸出活動が生産量の増加と港湾の物流改善に支えられていると話す。農業省のジョイレン・ファン・ウィク広報官は Forbes Africa 誌に対し、記録的な輸出量は国家経済における同部門の役割を示すものだと述べ、「輸出市場向けの2億300万箱を超える出荷実績は、雇用の創出や外貨獲得への貢献等、経済におけるこのセクターの重要な役割を示す強力な指標である」と語った。農業省は引き続き、既存市場の維持に努めつつ、インド、中国、中東での市場アクセスを拡大する取り組みを支援する方針である。

出典: Forbes Africa